

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:14 (78%) ②:3 (17%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:13 (72%) ②:4 (22%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:6 (33%) ②:11 (61%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:9 (50%) ②:9 (50%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:8 (44%) ②:10 (56%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:11 (61%) ②:5 (28%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:13 (72%) ②:4 (22%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:9 (50%) ②:6 (33%) ③:2 (11%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:6 (33%) ②:8 (44%) ③:2 (11%) ④:0 (0%) 未回答:2 (11%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:12 (67%) ②:3 (17%) ③:2 (11%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 4 (22%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 12 (67%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 1 (6%)
- ④その他： 1 (6%) ・・・・「学科の J A B E E プログラムでの授業評価会」
- 未回答： 2 (11%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 8 (44%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 10 (56%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 2 (11%)
- ④その他： 1 (6%) ・・・・「学生の授業アンケートを自身の科目に反映すること」
- 未回答： 1 (6%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：7 クラス（順不同）

[1] 受講生の要望を容れて、配布資料を授業中のスライドと一致させ、一回毎の授業の要点を明確に示すようにした。

[2] 教科書の難易度が高く、また 2 冊を使用したの、読みやすいもの 1 冊に限定した。グループ討論の内容を、各自の調査事項に限定して、事前に調べてきたことを話させたので、スムーズに進んだ。また各自に「報告・討論メモ」を作成させて、討論に集中させた。そのメモは、グループ討論の内容などを知る上でも役立った。グループ討論を経た上で、レポートを作成させたが、おおむね討論と関連づけることができた。

[3] できるだけ学生への質問の回数を増やした。

[4] 学生の反応が高かったグループワーク(ワールドカフェ)の実施回数を 1 回から 2 回に増やした。また、講義のシラバスを見直し、講義実施のスケジュールを改善した。

[5] ワークショップを 1 回ではなく 2 回行い、学生の習熟度を向上させた。

[6] アクティブ・ラーニングの仕方を下記のように改善した

- 1) パネルの事前チェック
- 2) 事前チェック内容への文書による回答
- 3) プレゼン方法の改善

[7] 学生に考えさせる演習を実施した。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 11 クラス（順不同）

[1] どの学部の学生にとっても、これからの人生の中で避けて通れない人間関係のあり方を中心にすえて、エビデンスに基

づく研究データを素材にして、グループでの話し合いを必ず盛り込みながら授業を展開した。この手法により、学生の知的好奇心や学習への意欲はかなり高まったと感じた。

[2] 独自の点としては、ワークシートのみならず簡単な描画等の作業を通して、美術鑑賞の深まりを図っているところが挙げられよう。ただし、受講生に作業や発言を求めることによって、時間的な制約もあり、授業で扱う内容の質・量ともに薄くなっている感は否めない。

[3] グループで協働して創造性を発揮するチームビルディング活動（マシュマロチャレンジ）や、マインドマップを書き音楽に関するアイデアを膨らませながらグループで音楽企画を立てる活動を通して、今後求められる創造性とイノベーション、コミュニケーション、コラボレーション（いずれも 21 世紀型スキルで重要な位置を占める）などの力の育成に取り組んだ点は評価できると考えます。また、チームビルディングや、導入のグループでの音楽活動（ケチャなど）を取り入れたことで、グループでのディスカッションや、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングが比較的円滑に進んだ点も評価できると考えます。反省すべき点としては、オーディオ機器の不調から操作に時間がかかった場面があった点、映像の字幕が小さく見えにくい場面があった点があると考えます。

[4] レポートのうち、内容や視点の優れたもの、章構成の整ったものを紹介し、他の学生にレポートの作成方法に気づかせた。その一環で、韓国に対する偏見を持っていた学生がいたので、匿名で、当該学生のレポートを紹介し、依拠した文献が研究を踏まえたものでないことなどを指摘し、改善を求めた。当該学生は、レポートを作成し直して提出し（評価は再提出のものを使用した）、学期末の総括レポートにおいて、自らの考え方が偏っていたことに気づいたことや、教科書の叙述やレポート作成を通じて、どのように考え方が変わっていったのかについて詳細にまとめている。

[5] 時事問題を取り入れ、法律用語も避けて説明をした。質問の回数を増やすと、授業の進行は遅くなる。シラバスに余裕も持たせなければならないと思った。

[6] 授業科目に関するテーマに沿って様々な意見を交わせる機会を多く提供できたという点では十分に役割を果たしたと思われる。今後は「知識」として提供できる情報をもう少し追加していきたい。

[7] 障がい者支援についての専門知識を有する充実した講師陣によるオムニバス形式の授業を開講することができた。医師、障がい者専門の教員、言語聴覚士、臨床心理士および特別支援学校の教員による講義は、現場ならではの熱意や説得力があり、学生の心に響いていた。また、当事者の体験をしたり、障がい者支援の技術を習得したり、実際に障がい者支援をする上で、役に立つ経験をすることもできた。この講義を、1 年次にできたことは、今後学生の中に障がい者支援の知識を有するものができたという理由でも有意義であった。また、この講義を積み重ねて、学内に支援学生を増やし、いずれは社会に巣立っていくことを考えると大変頼もしいと感じている。

[8] 板書で講義を行ったが、学生には見やすく分かりやすかったとの意見が寄せられた。分野の異なる学生に分かりやすく説明するためには、講義のスピードをゆっくり目に設定できる板書が適していると感じた。学生の発表はパワーポイントなどのパソコンだけに頼らず、一枚の紙に切り貼した手作り感のある資料づくりも有効と思われる。

[9] 工学部以外の学生に講義に興味を持たせることが難しいと感じた。特に今年度の学生はこちらからの質問などにも、あまり反応がなかったと感じた。

[10] アクティブ・ラーニングとして、学生が能動的に志向したり発言できるように、ワークショップの方法論を用いて授業を運営した。・・・2クラス

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 16（89%） ②いいえ： 2（11%） 未回答： 0（0%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 6（33%）
 ②読んで理解する： 5（28%）
 ③自分の考えをまとめて話す： 11（61%）
 ④自分の考えを文章にまとめる： 12（67%）
 ⑤討論する： 11（61%）
 ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 8（44%）
 ⑦その他： 1（6%）・・・「話しながら考える」
 未回答： 2（11%）

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 12 クラス（順不同）

[1] グループに分かれて討議した内容を、交代でみんなの前で報告するようにした。

[2] さまざまな手法を用いてグループ分けを行い、毎回異なるメンバーでワークを行うよう配慮した。その結果、学生からは多様な価値観・考え方に接することができたという好意的な感想が多く寄せられた。

[3] 音楽観に関するグループでの討論や、グループでの音楽企画立案、音楽企画に関するプレゼンテーションなどを通した言語コミュニケーション能力の育成だけでなく、ケチャなどのリズムアンサンブルを取り入れることで、グループの相手のリズムの間合いを見極めるなどの非言語のコミュニケーション能力も育成も試みました。また、答えが無限に存在するような発問を投げかけたり、様々な学部の学生が混在するようにグループ分けをおこなったりすることで、背景や考え方の異なる学生とのコミュニケーションができるように工夫しました。

[4] 当事者体験や支援技術の分やでは、主にグループ学習にて行った。グループごとに意見交換し検討し、代表者が発表する形とした。また、講義の毎に小レポートにて振り返りを行った。

[5] 課題調査結果をプレゼンさせるに当たり、その方法および要点について、班ごとに詳しく解説をした。

[6] 数名でグループを作り、課題を与え代表者に発表させることを試みた。

[7] 二列ワークなど、ワークショップの手法を取り入れた。

[8] 留学生を交えた、1日のががかりのワークショップ。90分では、議論が深く達しない。時間を設けて実施してこそその深いコミュニケーションに達するため。

[9] ・インタビュー法の練習

・グループワーク(ワークショップ)の方法論の教授

・プレゼンテーション準備と実習

・・・2 クラス

[10] レポートのピアレビュー。ディベート。

[11] 読む力をつけるために、前週にレジユメを配布して設問を載せた。設問に解答することで、著者の主張がどのようなものであるの

かを理解させようと試みた。また話すため、書くためには、話すべき、書くべき内容が必要である。事前の調査を行わせることで、話したり書いたりする契機になるように指導した。

D (問 22~25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 8 (44%) ②いいえ： 9 (50%) 未回答： 1 (6%)

問 22 で「はい」の方は問 23~25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおおよその回数を選んでください。

①1~5回： 4 (22%) ②6~10回： 1 (6%) ③11~15回： 3 (17%)
未回答： 10 (56%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 6 (33%) ②政治・経済・産業： 3 (17%) ③自然環境・フィールド体験： 1 (6%)
④その他： 3 (17%) ・ ・ ・「宮崎で実施された教育実践活動について」、「教育フィールド体験」、「環境問題」
未回答： 10 (56%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス

[1] みやだい COC 開設科目として、講義では、地域の担い手となる人材育成のために宮崎県の総合戦略を資料に用いたり、地域に出るために必要な、基本的なコミュニケーションスキルを教えている。 ・ ・ ・ 2 クラス